

予 算 要 求 資 料

令和 8 年度当初予算

支出科目 款：商工費 項：商工費 目：工鉦業振興費

事業名 伝統的工芸品展覧事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

商工労働部 地域産業課 伝統産業振興係

電話番号：058-272-1111(内3786)

E-mail：c11355@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 2,596 千円 (前年度予算額： 2,609 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	2,609	0	0	0	0	0	0	0	2,609
要求額	2,596	0	0	0	0	0	0	0	2,596
決定額	2,596	0	0	0	0	0	0	0	2,596

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

伝統工芸品は、本県のモノづくり産業の原点であり県の誇りである。さらに本県の伝統や文化を現代に継承し、生活の豊かさや潤いを与えるものであることから、次代に継承すべき貴重な宝である。しかし、県内の伝統工芸産業は、中小零細性が強く、生活様式の変化や安価な模倣品の増加による売り上げ不振、原材料及び、後継者不足により弱体化が著しい。よって、生産者主体で首都圏等における展示即売会を行う体力がない。このため、県として伝統工芸品の販路及び需要の拡大に対して支援をしていく必要がある。

(2) 事業内容

本県の伝統的工芸品・郷土工芸品の普及啓発、需要喚起を図るとともに、消費者ニーズの把握を通じた新商品開発の促進を図るため、(一財)伝統的工芸品産業振興協会(経済産業省の外郭団体。以下「伝産協会」)主導により首都圏等で開催される展示即売会に本県の事業者が参加するための経費を負担する。

<展示即売会の概要>

○名称：「伝統的工芸品展」

○時期：令和 8 年 7 月、令和 9 年 2 月(いずれも 6 日間)

○場所：東京並びに大阪の百貨店

○内容：伝統的工芸品・郷土工芸品の展示・販売・製作実演

○主催：伝産協会

○対象業種：本県の伝統的工芸品(国指定) 6 品目

(飛騨春慶、一位一刀彫、美濃焼、美濃和紙、岐阜提灯、岐阜和傘)

本県の郷土工芸品(県指定) 40 品目

（３）県負担・補助率の考え方

伝統的工芸品展への出展は、伝産協会に出資している都道府県等のみに限られ、その出展コマ数等に応じた負担を行うため、県負担は妥当

（４）類似事業の有無

無

３ 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
委託料	707	展示販売・出展経費
負担金	1,889	共通経費、小間代
合計	2,596	

決定額の考え方

４ 参 考 事 項

（１）各種計画での位置づけ

「清流の国ぎふ」創生総合戦略

〔３〕地域にあふれる魅力と活力づくり

（１）地域の魅力の創造・伝承・発信

⑤「『清流の国ぎふ』ブランド」づくり

（２）国・他県の状況

他県でも同様に負担金を予算化。

（３）後年度の財政負担

毎年度同額程度の負担が必要。

（４）事業主体及びその妥当性

伝産協会は、伝統的工芸品の産地組合を代表する国内唯一の機関である。また、同協会は各産地組合の活性化計画策定に対する指導、普及啓発事業等の各種事業を実施していることから、伝統的工芸品産業振興に中心的な役割を果たしている。

事業評価調書（県単独補助金除く）

☐ 新規要求事業

☒ 継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

地域ブランドの育成や県産品の市場の拡大を図り、ふるさと岐阜県の資源を活かした活力づくりを目指す。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R5)	R6年度 実績	R7年度 目標	R8年度 目標	終期目標 (R)	達成率
来場者数	150,000	95,000	150,000	150,000	150,000	63%

○指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）

令和4年度	
令和5年度	指標① 目標：____ 実績：____ 達成率：____ % 本県の事業者が参加するための経費を伝産協会へ負担し、展示即売会事業を支援した。 「伝統的工芸品展」 ○日時：（大阪）令和5年7月12日～17日 （東京）令和6年2月23日～28日 ○場所：（大阪）阪急うめだ本店 （東京）松屋銀座 ○内容：伝統的工芸品・郷土工芸品の展示・販売・製作実演 ○出展工芸品：一位一刀彫、岐阜和傘 ○来場者数：（大阪）約12万人 （東京）25,571人 指標① 目標：150,000人 実績：約150,000人 達成率：100%
令和6年度	本県の事業者が参加するための経費を伝産協会へ負担し、展示即売会事業を支援した。 「伝統的工芸品展」 ○日時：（大阪）令和6年7月17日～22日 （東京）令和7年2月19日～24日 ○場所：（大阪）阪急うめだ本店 （東京）松屋銀座 ○内容：伝統的工芸品・郷土工芸品の展示・販売・製作実演 ○出展工芸品：一位一刀彫 ○来場者数：（大阪）約6.8万人 （東京）27,357人 指標① 目標：150,000人 実績：約95,000人 達成率：63.3 %

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない	
(評価) 3	事業者の大半が中小零細事業者であり、事業者主体で首都圏における展示販売会を行うだけの体力がないため、今度も伝産協会（経済産業省）と連携し、継続した業界支援が必要である。
・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない	
(評価) 3	一般消費者やバイヤーも含め、国内でも最大の購買層がいると考えられる大都市圏において、積極的に展示販売事業を実施することにより、各事業者は、伝統的工芸品等の効果的な普及啓発、需要喚起を図ることができる。
・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている	
(評価) 2	事業内容を精査したうえで、必要額のみを予算措置し、経費削減に努めている。

(今後の課題)

・事業が直面する課題や改善が必要な事項 人々の生活スタイルや嗜好の変化に伴い、本県の伝統的工芸品の需要を著しく縮小している。

(次年度の方向性)

・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 伝統的工芸品は、現在のモノづくり産業の原点であるとともに、本県の伝統や文化を他県や外国へアピールする象徴であり、失ってはならない本県の貴重な宝であるため、引き続きその魅力をPRし、需要拡大にかかる支援が必要である。
